

# 令和2年度 事業報告書

- ◇ はじめに . . . P 1
- ◇ 子供の家 . . . P 2～5
- ◇ 愛童園 . . . P 6～9
- ◇ ちぐさ . . . P 10～13
- ◇ あい . . . P 13～14
- ◇ 丸の内保育園 . . . P 15～18
- ◇ 三里保育園 . . . P 18～22

## － はじめに －

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、その感染防止を常に考慮して各種事業に取り組まざるをえず、計画していた事業の見直し、事務局として開催の準備を進めてきた中国・四国ブロック母子生活支援施設研修会の延期など一部事業の廃止や延期を余儀なくされた。

新型コロナウイルス感染防止対策については、日々の検温や手洗い消毒、マスクの着用等の実施はもとより、3密を避ける行動に意識して取り組むとともに、感染状況に応じて感染拡大地域への往来の制約などを行った。行事についても、密にならない工夫を行うなど可能な限りの対応を実施した。また、国の補助金等を活用して、感染を防止するためのマスクや消毒液、防護服などの衛生用品やアクリル板、空気清浄機などの備品を購入するなど環境改善を図った。

令和2年4月に、国の社会的養育ビジョンに基づき高知県における児童養護に関する10年計画である「高知県社会的養育推進計画」が策定された。これを受け、子供の家、愛童園において、各施設の今後10年間の小規模化、多機能化等の計画である「社会的養育推進計画」を9月に策定し、愛童園においては、小規模化を進めるために、令和3年4月の完成を目指した分園型小規模グループケアの建築工事に12月から着手した。

近年、児童養護、母子生活支援施設、保育職場は厳しい雇用環境が続いており、人材の確保と育成は大きな課題となっている。そこで、法人情報の発信をより円滑に行えるようホームページをリニューアルするとともに、コロナ禍で研修の廃止が多くなる中、Web研修なども積極的に活用し、職員の意識啓発、専門性の向上やステップアップのための支援に継続して取り組んだ。また、新たな人材として、職員採用試験を秋、冬に実施し、子供の家1名、愛童園2名、三里保育園1名を正職員として採用した。

以下、高知県福祉事業財団5施設は、児童憲章や児童福祉法等の理念をふまえ、令和2年度に掲げた事業計画に次のとおり取り組んだ。

昭和24年の開園以来70年余りが経過した。この間の子どもを取り巻く環境は大きく変化をし、それにともない入所理由も変わってきた。開園後に子供の家から社会に巣立っていった児童、あるいは家庭等に復帰した児童は合計1,028名に及んでいる。

平成28年に児童福祉法が大幅に改正され、権利の主体者をより明確に児童と位置付けるとともに、さらに家庭支援が強化されることとなった。

子供の家では児童福祉法や子どもの権利条約の理念のもと、平成28年12月に策定した子供の家の運営理念、運営目標に基づき、児童の最善の利益のために、養育及び自立支援に取り組んできた。

◎令和2年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

### (1) 児童の権利擁護

- ① 施設内研修を行うことで職員間の意思の共有を図り、養育の質の向上に努めた。また、専門職が参加した支援会等を積極的に行い、措置児童の権利擁護について確認し、自立に向け協議を重ねた。
- ② 意見箱を設置し、声の把握に努めた。また全児童を対象にヒアリングを行い、困りごとを把握し適宜対応することで、入所児童の生活の質の向上に繋げた。

### (2) 児童の養育・支援

- ① 心理療法担当職員・家庭的支援専門職員・個別対応職員・自立支援職員等の専門職を配置し、連携することで各児童に応じた専門的な支援を行った。
- ② 看護師を中心に、コロナウイルス感染対策を徹底して行い、児童が安心して生活を送ることができるよう環境整備に努めた。

#### ◆医療的ケア

- 医療的ケア対象児童数 21名
- 全児童延べ受診者数 807名
- 主な医療機関 医療センター・高知大附属病院・愛宕病院  
療育センター・近森病院・

#### ◆心理療法

- 心理療法対象児童数 24名
- 年間延べ実施日数 250日
- 1日当たり平均実施時間 1時間

#### ◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応対象児童数 7名
- 個別対応年間実施日数 100日
- 1日当たり平均実施時間 30分

◆ 中学・高校を卒業した児童の進路状況（令和2年度）

進路	進学先		就職先	
	追手前高校	1名	県内就職	2名
太平洋学園	1名	県外就職	1名	
高知高等学院	1名	自衛隊	1名	
幡多農業高校	1名			

（3）家庭支援の強化

- ① 社会福祉士の資格を持つ職員等2名を家庭支援専門相談員として配置し体制の充実を図り、関係機関と連携し家庭支援に取り組んだ。
- ② 児童と家庭の関係再構築のために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所とも連携しながら積極的に促進した。

（4）事故防止と危機管理

- ① 防災マニュアルを随時見直すとともに、年間避難訓練計画に基づき火災、地震、津波を想定し、様々な形で避難訓練や消火訓練を実施した。
- ② 備蓄食料等の点検を随時行うとともに、地域の避難所としての役割を果たすため、日頃より積極的に地域活動に参加をし地域との関係を深めた。

（5）家庭的養育の推進

- ① 将来の全ブロック小規模化を目指し、小規模グループケアを6ブロックとするとともに、各ブロックに専任職員を2名配置し、地域分散化を見据え職員のスキルアップに取り組んだ。

（6）関係機関連携と地域支援

- ① 地域の地縁組織や関係機関との連携のもと、地域の子育て支援のニーズや情報の収集に努めた。
- ② 8自治体と業務委託の契約を締結し、ショートステイの受け入れを行った。

（7）職員の資質と施設運営の向上

- ① 階層別研修や専門職研修に積極的に職員を参加させ、スキル、キャリアアップを図った。
- ② 職員会、ケース検討会等の各種会議を適宜行い情報の共有化を図り、施設運営の向上に努めた。

◆ 各種研修会等への参加状況

○全養協関係	1回／3名	○中四国養協関係	— / —
○県養協関係	1回／4名	○全社協関係	1回／1名
○各種専門研修	2回／4名	○県社協関係	— / —
○法人内研修	5回／114名	○その他	2回／3名

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
定員（暫定）	70名 (56名)	70名 (54名)	70名 (52名)	70名 (51名)	70名 (53名)
在籍児童数	46名	38名	47名	47名	44名
職員数	36名	40名	38名	39名	38名

※職員数：臨時・パートを含む

◆令和2年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	47	46	46	45	46	47	47	46	46	46	47	46
入所	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	2
退所	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	4

◆学年別児童数

令和2年3月31日現在

	就 学 前		小 学 校						中 学 校			高 校			そ の 他	計
	3歳 未満	3歳 以上	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年		
男	1	7	1	0	1	0	2	2	3	1	2	3	3	0	4	30
女	0	2	0	2	1	0	3	1	1	0	2	2	0	0	0	14
計	1	9	1	2	2	0	5	3	4	1	4	5	3	0	4	44

※自立支援1名を含む

◆入所主訴理由別児童数

令和2年4月1日現在

入所理由	人 数	構成比
養育困難	23人	50%
身体的虐待	4人	9%
心理的虐待	4人	9%
性的虐待	0人	0%
ネグレクト	15人	32%
合 計	46人	100%

◆保育士、社会福祉士、介護等施設実習生の受入れ(県立大学、高知大学、高知工科大学、高知学園短大、龍馬ふくし専門学校、高知福祉専門学校等)

◆一時保護委託の状況(受託先:児童相談所)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和2年度	5名	5名	467日
令和元年度	5名	5名	337日
平成30年度	7名	7名	310日

◆子育て支援短期利用事業(契約先:高知市・南国市・安芸市・土佐市・いの町  
佐川町・日高村)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和2年度	5名	6名	30日
令和元年度	5名	7名	96日
平成30年度	6名	6名	29日

◆令和2年度主要な年間行事

- 4月 小・中家庭訪問(コロナのため中止)、司皿鉢寄贈(夕食)  
日教組高知・高知市教組来園(コロナのため寄贈のみ)
- 5月 子どもの日バイキング(各ブロック)
- 6月 輪抜け祭(コロナのため園行事とした)
- 7月 浦戸湾のんびりクルーズ招待
- 9月 内科検診
- 10月 インフルエンザ予防接種(1回目)
- 11月 ちぐさ祭り招待、七五三  
インフルエンザ予防接種(2回目)、中央ライオンズみかん狩り招待
- 12月 市長サンタ来園、子供の家クリスマスバイキング(各ブロック)、ワールドメイト寄贈  
高知教会クリスマス招待(コロナのため不参加)、植村サンタ来園
- 3/1月 正月、新年夕食会(各ブロック)、日赤赤野奉仕団来園
- 2月 節分豆まき
- 3月 高校卒業祝い会食(各ブロック)
- 通年 「散髪奉仕団・風」による散髪奉仕(毎月第4月曜日)  
FD試合招待、子ども劇場招待、その他多数の招待・来園

開園以来59年が経過する中、子どもと子育てを取り巻く環境はもちろん、児童養護施設の置かれた状況も大きく変化してきた。この間に愛童園から社会に巣立った、あるいは家庭等に復帰した児童は329名を数える。

近年、子どもや家庭をめぐる課題は複雑化、深刻化しており、特に親の離婚、貧困や子どもの発達障害などを背景として、個々の児童の特性に配慮した細やかなケアが求められる入園児が多くなっており、職員には高い専門性とケアワークが求められている。また、国の「新しい社会的養育ビジョン」を受けた施設の小規模化、高機能化、多機能化への取り組みも喫緊の課題となっている。加えて、本年度は、新型コロナウイルス感染症への感染予防を踏まえた施設運営が求められることとなった。

このような状況のなか、愛童園は、児童の最善の利益の実現のために、関係機関や地域社会と連携を図りながら、児童の幸せと心身の健やかな発達成長を見守り、社会的な自立に向け、次のとおり取り組みを進めた。

## ◎令和2年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

### (1) 児童の権利擁護

- ① コロナ禍で、各種行事の中止が相次ぐなか、Web研修など職務に影響のない範囲で研修に参加させるなど、人権感覚を磨き、養育者としての倫理観や責任感を持って児童に対応できるよう資質の向上を図った。
- ② 日々の養育のなかで「こどもの最善の利益」を常に意識して養育にあたるとともに、児童からの意見の聞き取りや意見箱の設置等により、児童の意見を表明できる環境整備に努めた。

### (2) 児童の養育・支援

- ① 在園児童の半数以上が心理療法を必要としており、発達障害や知的障害のある児童に対し、自立支援計画の中に児童の心理的支援目標を設定し、児童相談所や学校、医療機関等と連携した計画的な支援に取り組んだ。
- ② 日常的な生活援助と併せて、学習の定着を図るため宿題等の支援を積極的に行った。また、児童が自ら選択できるよう必要な情報の提供や助言を行うとともに、児童の希望したところに進学できるよう学校等と連携し支援を行った。
- ③ 自立生活が安定していない卒園生への助言、見守り支援を継続して実施するとともに、コロナ禍の緊急支援事業を活用し生活物資の送付などの支援を実施した。

### ◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応児童数 9名
- 個別対応年間実施日数 28日
- 1日当たり平均実施時間 45分
- 支援会での情報共有、心理担当職員との連携及び職員会での連絡

◆令和3年3月に中学校、高校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	進路等の状況
1	中学	男	○		県立高知江の口特別支援学校高等部
2	中学	男	○		県立城山高等学校
3	中学	女	○		県立山田高等学校
4	高校	女	○		平成福祉専門学校
5	高校	女		○	多機能型事業所ワークチャンス

(3) 家庭支援の強化

- ① 児童と家庭の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所と調整し、コロナ禍のなか可能な範囲で実施した。
- ② 児童相談所や家族の居住する市町村とのサポートケアなどを踏まえ、家庭支援専門相談員を窓口とした家族への働きかけや家族からの相談を受けるなど、児童と家庭との関係調整を図った。

(4) 事故防止と安全対策

- ① 事故防止マニュアル、事故事件等対応マニュアルに基づいて対応し、ノロウイルス感染症等の流行期には予防措置を徹底した。また、新型コロナウイルスへの感染予防のため、手洗い、咳エチケットの徹底等に取り組んだ。
- ② 防災対策マニュアルに基づき消火訓練、避難訓練を定期的実施した。
- ③ 園内研修として警察署員を講師に招き、防犯講習を実施し、不審者への対応方法、留意点などを確認するとともに、交通安全についても毎職員会において意識の徹底を図った。

(5) 社会的養育の推進

- ① 家庭的養護の推進には、職員による養育の質の向上が不可欠であり、分園型施設の建築計画を通して、家庭的養育の必要性について理解を深めた。
- ② 「高知県社会的養育推進計画」を踏まえ、今後10年間での施設の小規模化、高機能化等の指標となる「愛童園社会的養育推進計画」を9月に策定した。また、小規模化の取り組みとして、園舎近隣にある職員宿舎において分園型小規模グループケア、2ユニットを整備するための改修工事に12月から着手した。
- ③ 里親関係の各種会合、研修会に参加するとともに、香南市保健師との勉強会を開催するなど里親支援体制の強化を図った。また、関係機関と連携のもと里親実習生を受け入れ、里親育成にも努めた。

(6) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会に参加し、見守りの対象となる児童や家庭の情報を共有して対策を協議し、実践に努めた。
- ② 学校との定期的な支援会の実施や児童相談所との連携のもと、児童の支援状況や家庭も含めての情報の共有に努めた。また、一時保護や子育て短期支援事業

(ショートステイ)の受け入れも行った。

◆一時保護委託の状況(受託先:児童相談所)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和2年度	3名	3名	46日
令和元年度	3名	5名	158日
平成30年度	3名	3名	26日

◆子育て短期支援事業(受託先:香南市、安芸市、香美市、芸西村、室戸市)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和2年度	2名	2名	8日
令和元年度	1名	1名	7日
平成30年度	3名	7名	9日

(7) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 新型コロナウイルス感染症防止のため、Web研修など職務に影響のない範囲で研修の機会を確保し職員のスキルアップを図った。
- ② 外部講師による園内研修を実施し、施設に入所することになった児童や家庭の心理的側面の理解を深め、日々の処遇の向上を図った。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 3回/4名    ○中四国養協関係 なし
- 県養協関係 1回/2名    ○各種専門研修 7回/10名
- その他 4回/13名

また、全員参加の園内研修(ノロウイルス対策、分離体験への対応、防犯)のほか、施設実習終了後「児童の処遇のあり方」について実習生反省会を兼ねた研修会などを実施した。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年度	28年度	28年度	29年度	30年度	2年度
定員(暫定)	30名 (28名)	30名	30名	30名 (29名)	25名
在籍児童数	24名	23名	22名	20名	20名
職員数	16名	17名	19名	19名	22名

※職員数:臨時・パートを含む

◆令和2年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22	22
入所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

◆学年別児童数

令和3年3月31日現在

就学前		小学校							中学校			高校			その他	計
	3歳未満	3歳以上	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
男	0	3	0	0	1	1	0	0	2	1	2	1	1	0	0	12
女	0	1	2	1	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
計	0	4	2	1	2	3	0	0	2	1	3	1	1	0	0	20

◆入所主訴理由別児童数

令和3年3月31日現在

入所理由	件数	構成比	入所理由	件数	構成比
父母の行方不明	1	5.0%	虐待	6 (3)	30.0%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	2	10.0%
父母の拘禁	1	5.0%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	1	5.0%	措置変更	5	25.0%
父母の養育困難	4 (2)	20.0%	その他	0	0.0%
			合計	20	100.0%

( ) 内は、措置変更児の当初措置理由

◆令和2年度主要な年間行事

- 4月 新年度編成
- 5月 第1回中央児相サポートケア
- 6月 第1回地域支援者会議、
- 7月 七夕祭り、施設実習(龍馬学園)
- 8月 日帰りキャンプ、消防訓練、施設実習(龍馬学園)
- 9月 施設実習(高知学園短大)、中学校体育祭
- 10月 第2回地域支援者会議
- 11月 卒園旅行、小学校運動会、園内研修(ノロウイルス対策)
- 12月 開園記念、第2回中央児相サポートケア、クリスマス会
- 03/1月 お正月、消防訓練、園内研修(分離体験への対応)
- 2月 節分豆まき、施設実習(高知福祉専門学校)、第3回地域支援者会議
- 3月 卒園式、第3回中央児相サポートケア、園内研修(防犯)

※ 新型コロナウイルス感染症防止のため、事業の廃止・縮小を行った。

昭和22年、戦後の混乱期に恩賜財団同胞援護会高知支部の経営により高知県最初の母子寮として、相生町に「千草母子寮」（定員5世帯）を開設しました。

その後、経営組織を改組し、社会福祉法人高知県福祉事業財団を設立し今日に至り、平成9年児童福祉法の改正により「母子生活支援施設ちぐさ」と名称も変更となりました。

平成10年には現在地に移転新築（定員30世帯）し、母と子が一緒に生活できる唯一の児童福祉施設として、広く県内外から母子を受け入れてまいりました。

百石町に移転以来令和3年3月末までに192世帯が入所し、170世帯が自立していきました。

これからも母子の権利擁護に努め、自立に向けた支援に努めてまいります。

◎令和2年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

**(1) 母と子の権利と尊厳の擁護**

母と子が一緒に生活できるという特徴を持った唯一の施設として「ちぐさ理念」に掲げ、それぞれの生活課題に向き合い、安全な居場所の提供と自立に向けた考えを尊重しその歩みをともにした。

**(2) 利用者の意向を意識しつつ目標設定を行い、切れ目のない支援の展開**

年度当初に22世帯の支援計画書を作成し、毎月2回の職員会でその課題を共有し、随時見直しながら対応に努めた。

**(3) ハローワーク等就労支援機関と連携し、経済的自立への道筋をつける。**

延べ求職者8名。そのうち同行支援はハローワーク（はりまやジョブセンター）5名。3名が就職した。

**(4) 子供の育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行う。**

延べ75名の幼児の預かり保育を実施した。（コロナ禍の中、保育育児は極力母親で完結するよう指導そのため預かり保育が激減した）

**(5) 母親に対して基本的な生活習慣の支援**

育児はもとより掃除、食事、入浴に関して未熟な母親が多くその都度職員が部屋に入り、手伝い助言した。とりわけ若年の特定妊婦については、時間を決め集中的に支援を行い母親としてのスキルが上がった。

**(6) DV被害からの回避・回復のため、広域利用や一時保護委託の受入を行う。**

令和2年度は4世帯の広域利用（市外）があった。

また平成19年度から高知県女性相談支援センターと一時保護委託契約を結んでおり、1世帯を11日間受け入れした。

(7) 地域ニーズに対応するため、ショートステイ・トワイライトステイを実施する。

令和2年度は香南市より1世帯を7日間受け入れた。

(8) 防災・減災対策の実施

毎月1回避難訓練を実施。コロナウィルス感染予防のため毎年実施している消防署員による消火訓練、地震の講話、非常食の試食会は中止としたが、高知県防災対策課の起震車体験や施設の防火管理者を中心に自主的な消火訓練や学習を実施した。

(9) 職員の資質と施設運営の向上

本年度は新型コロナ感染対策のため集合研修はほとんど中止となり、オンラインによるリモート研修となった。母子生活支援施設協議会や社会福祉協議会の各種研修、関係機関等の主催する事例検討会等に参加し、それぞれのスキルアップに努めた。(21回のべ36名)

◆年度別入所者数・職員数

各年度3月31日現在

年 度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
定数(暫定)	27世帯	27世帯	27世帯 (26)	27世帯 (22)	27世帯 (22)
入所世帯数	24世帯	15世帯	17世帯	22世帯	22世帯
入所人数	54名	38名	43名	55名	53名
職員数	9名	10名	10名	10名	11名

※職員数：契約職員を含む

◆令和2年度 月別世帯数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	22	21	22	22	22	23	22	21	21	21	21	21
入所	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
退所	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0

◆令和3年3月31日現在の入所世帯状況 (定員27世帯 暫定22世帯)

入 所 世 帯 の 状 況	入所者数	22世帯53名(内児童数31名)					
	市内・県内外別世帯数	高知市内 ⇒6		県内市町村 ⇒15		県 外 ⇒ 1	
	主たる入所理由	D V ⇒7		住居の確保 ⇒4		養育支援 ⇒ 11	
	在所年数	5年以上/8		3~5年/1	1~3年/11		1年未満/2
	就労者の状況	常雇 5名		パート 5名		無職 12名	
	母親の年齢構成	10代/1名	20代/5名	30代/9名	40代/7名	50代/0名	
	子どもの年齢構成	乳幼児9名	小学10名	中学10名	高校2名	大学0名	

◆令和2年度の入所者の状況

世帯	職業	入所理由	措置元	世帯構成
1	無職	夫のDVにより 市外より転入	市外	2名
2	無職	離婚により住居なし 市外より転入	市外	2名
3	無職	夫の死亡により 市外より転入	市外	4名
4	介護職	同居男性とその母によるモラハラ市外より転入	市外	2名

◆令和2年度退所者の状況

世帯	職業	退所理由	在所年数	世帯構成
1	パート	入所者とのトラブルにより民間アパートへ	1年2か月	2名
2	無職	夫と復縁により市外へ	2か月	2名
3	無職	市営住宅に当選	12年5か月	4名
4	無職	県営住宅に当選	2か月	4名

◆各種研修会等への参加状況（21回／36名）

- 職員研修「シングルマザーの心理特性」・・・・・・・・・・全職員
- 職員研修事例検討会 4回・・・・・・・・・・・・・・・・全職員
- 職員研修事例検討会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3名
- 会計セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 所内事例研修《子供の家》2回・・・・・・・・・・・・ 2名
- 事例研修《女性相談支援センター》・・・・・・・・・・ 1名
- こうち男女共同参画センター研修・・・・・・・・・・・・ 1名
- 3keys ミニ講演会リモート「学習支援」・・・・・・・・・・ 3名
- 甲種防火管理新規講習会・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 心理研修リモート「ストレスを軽くするからだづくり」・・ 1名
- 西日本こども研修センターあかし「こころのシリーズ」・・ 1名
- 高知市子育て支援研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- ソーレ研修「性暴力被害者への初期対応」・・・・・・・・ 1名
- 母子生活支援施設職員指導者研修 リモート・・・・・・・・ 1名
- 会計セミナー予算・決算編・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- ファミリーソーシャルワーカー研修会・・・・・・・・・・ 1名
- 退所児童等支援事業全国セミナー・・・・・・・・・・・・ 1名

◆主な年間行事

令和2年当初より新型コロナウイルスにより職員、入所者の行動が著しく制限され従来の行事が中止される中まずは感染防止のための新しい生活様式の徹底をした。そのような中職員が工夫をしながら下記の行事を実施した。

- 4月 母親健康診断(1回目)
- 7月 安芸川遠足
- 8月 お母さんと遊ぼう (乳児、幼児を分けて施設内で)
- 8月 むろと元気塾 (ドルフィンスイムなど)
- 9月 お母さんと遊ぼう 2回目
- 9月 ボルタリングにチャレンジしよう
- 9月 DVD鑑賞会
- 10月 母親健康診断 (2回目)
- 11月 ちぐさ秋まつり (入場者を3回に分け密にならないよう工夫した)
- 12月 クリスマス会
- 3月 お母さんと遊ぼう 3回目
- 3月 ベリーダンスエクササイズ

子育て支援センター あい

地域子育て支援拠点事業として、子育て中のお母さんお父さんが、親子で楽しく遊べる場所を提供してきた。また、利用者同士の交流の仲立ちをしたり、様々な情報提供や育児相談を受けたり、育児講座を企画し地域の子育てを応援した。

毎月発行している子育て通信「あい」を利用者に配布して行事内容等を周知し、高知市の子ども育成課・保育幼稚園課・南部健康福祉センター・潮江図書館・おもちゃ図書館・ソーレ等にも送付し情報提供した。同様にポスターを毎月、毎日屋・マルナカ・マックに掲示した。さらに市や県の情報や子育てサークルの講座・イベント情報も随時提供してきた。

引き続き高知県のプレマnetに毎月掲載を依頼し広く広報に努め、年度途中からはホームページでの情報公開も行った。

今年度は新型コロナ感染対策として、子ども育成課の指示で4・5月は遊び場提供が中止、4月～6月には育児講座等がすべて中止となった。7月以降は利用者に安心して利用していただけるよう今まで以上に保育室やテラス洗面所の清掃・消毒、おもちゃ等の消毒に力を入れた。

さらにコロナ感染対策補助金で空気清浄機や殺菌庫を購入し、衛生・環境面の整備を行い、来所を控える傾向のある利用者に安全性をPRした。

登録者数は前年度とあまり変わらないが、延べ利用者数は大きく減少した。これはコロナ禍によることもあるが、満3歳での入所や就園、転勤等出の減少や、一時保育や園庭開放など子育て支援の幅が広がったことも一因かと思われる。

また、令和2年度から高知県の集計の仕方になり、午前中に利用した親子がふたたび午後にも利用してもカウントしないようになったことも延べ利用者数の減少に繋がったかと思われる。

職員数 2名 (主任指導員及び指導員)

令和2年度の登録児童数 111名	
事業内容	① 育児相談 203件 (参考：令和元年度 361件・平成30年度 263件・平成29年度 148件)
	② 育児講座・・・実施回数38回 ※参加延べ人数 538名 (親：275名 子：263名)
	③ 遊び場提供 ○開所日数 222日
令和2年度施設利用状況 延べ人数 2,279名 (親：1,128名 子：1,151名)	
参考	：令和元年度 延べ人数 4,830名 (親：2,425名 子：2,405名)
参考	：平成30年度 延べ人数 5,653名 (親：2,540名 子：3,113名)
参考	：平成29年度 延べ人数 5,748名 (親：2,698名 子：3,050名)

#### 令和2年度育児講座内訳

開催月	講座名
4月	中止
5月	中止
6月	中止
7月	よちよちランド、お花あそび、手づくり魚釣りセット、ピアノの演奏を聴こう
8月	よちよちランド、手づくりキーホルダー、ママと子どもの魔法のお片付け
9月	よちよちランド、お花あそび。手づくり敬老ハガキ、クラフトテープでかごを編もう、保健師育児相談
10月	よちよちランド、お花あそび、幼児食の話、みかんがりごっこ、手づくりクリップ
11月	よちよちランド、お花あそび、離乳食教室。助産師育児相談 手づくりクリスマスブーツ
12月	よちよちランド、お花あそび。プチクリスマス、手づくり段ボールクリスマスツリー
1月	よちよちランド、お花あそび、手づくりコマ、陶芸教室
2月	よちよちランド、お花あそび、保健師育児相談、手づくりおひなさま
3月	よちよちランド、お花遊び、ピアノの演奏を聴こう、手づくりペーパーウエイト

開園50年の年になり、新園舎の生活に期待をもって令和2年度を迎えましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、これまで経験したことのない“3密”を意識した日々を送ることとなりました。年間を通して感染拡大防止に重点を置いた取り組みを行い、行事の内容や保護者の参加の仕方についても見直しをし、保育を進めてきました。

近年、核家族化、少子化の進行、子育て家庭の地域からの孤立、子育て不安の増加等、子どもと子育てをめぐる環境が大きく変化しており、保護者支援がなお一層重要とされています。家庭や地域、専門機関との連携を図りながら、すべての子どもたちの健やかな育ちを支えるとともに、保護者に対する適切な支援を行い、安心して利用してもらえるよう自園の保育を発信し、信頼関係を築いていくことを大切に取り組んでいます。

子ども子育て支援新制度が進められる中、子どもの連続した発達の保障、主体性を大切にした質の高い保育や専門性の向上を目指しています。

#### ◎令和2年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

##### (1) 安心して過ごせる家庭的な環境の中で一人ひとりを大切にした保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 乳幼児期における情緒の安定や信頼関係の形成、一人ひとりの発達に応じた適切なかかわりに留意し、子どもの姿をありのまま受けとめ、子どもが安心して自分の思いを出せるような養護、子どもの主体性を大切にした教育の安定的な提供に努めた。
- ② 家庭との連携を大切にし、子ども達の現状をしっかりと把握して、安心して園生活を送れるようなかかわりを持ち、職員間の共通理解のもと適切な支援を行った。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手洗い・うがい・手指消毒をこまめに行い、園児同士は普段と変わらない他児との交流を行えるよう、保育中の換気に十分配慮し、人が触れる場所の消毒を行い感染予防に努めている。

##### (2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援（障がい児）保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 子ども達の育ちを支え、保護者の子育てを支えるため、0歳児をはじめ、途中入所を多く受け入れた。
- ② 発達の気になる子ども、貧困世帯など社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭を含め、子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境の変化をふまえ柔軟に対応した。

##### (3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、保育所地域活動事業の実際

- ① コロナ禍のため、地域の高齢者宅、デイケア施設等への訪問は実施しなかったが、園児が作ったプレゼントやメッセージは届け、間接的に交流し、人をいたわる優しい心を育むことができた。
- ② 地域の小学生と年長児の直接的な交流が今年実施できていない。就学時健康診断や一日入学(実施した小学校は)で小学校に行く機会があり、中には在校生と関わりを持った子もいた。小学校から、一日の生活の流れを紹介するDVDが送られ、映

像を見ながら小学校に向けての期待を持つことはできた。

- ③ 地域の敬老会に年長児が招かれていたが、コロナ禍のため実施されなかった。

**(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援**

- ① 保護者との連携を密に園全体で子育て及び家庭支援の強化を図った。NPO カンガルーの会の方に来園していただき、園児のケースについて職員間で連携し、共有する機会ももてた。
- ② 家庭環境に対する配慮、専門機関との連携等、保育内容の充実を図るとともに、保健師、保育士による面談、相談の機会を設け園全体で取り組んだ。

**(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上について**

- ① コロナ禍のため研修計画が大幅に変更となったが、会場で実施する研修については参加し、その他 zoom 研修、オンデマンド研修等活用し、可能な範囲で参加し、職員の自己研鑽に必要な機会の確保に努め、研修後は職員会等で内容を共有した。
- ② 保育雑誌の指導計画について他園とともに意見交換し学びを深めたり、高知県保育士会の研究チームとして全国大会に向けた研究を進めたりしている。
- ③ 子ども・子育て支援制度、改定保育所保育指針についての理解等、一人ひとりが課題を明確にすることができた。

**(6) 保護者の就労支援の為、延長保育、土曜午後保育の実施**

- ① 保護者の就労支援の為、保育の必要な家庭対象に平日午後 7 時まで、土曜日は午後 5 時 30 分までの保育を実施した。

**(7) 津波避難計画に基づいた避難訓練や防災活動への積極的な参加**

- ① 様々な想定に基づいた訓練を積極的に実施した。
- ② 防災、減災対策の課題を共有しつつ、マニュアルや対応についての見直しを行った。

**(8) 近隣に居住する家庭の少ない園ではあるが、今後の地域の子育て支援の機能を強化すべき取り組みの展開**

- ① 地域の子育て家庭とつながることの必要性を考え、コロナ禍ではあるが、感染予防をしてもらったうえで見学を受け入れ、短い時間で様子を見てもらったり、触れ合ったりしてきた。今年は外部との接触を控えることから、バザーなどの PTA 活動も行っていないため、地域と一体となった支援には十分結びついていないが、今後も地域の児童民生員さんとも連携し、園児確保や開かれた園づくりを考えていきたい。

令和3年3月31日現在

定員	130名
職員数	28名(正職12名、契約職員9名、パート7名)
	嘱託医 2名 内訳(歯科医1名・内科医1名)
保育時間	平日(7:30~19:00) 土曜(7:30~17:30)

早出、居残り児童	早出児童名56名、居残り児童88名
土曜日の午後保育	登録園児数42名、平均利用人数17名

※コロナ禍になり利用が減少した月もあった

※ 契約保育士9名中、特別支援担当保育士1名、特別支援加配保育士1名を含む  
パート職員7名は延長保育時間対応(3時間～6時間パート)

◆在籍児童数

令和3年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	17	20	20	16	12	22	107

◆年度別:月平均在籍児童数

年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
3歳児以上	55名	61名	61名	54名	49名
3歳児未満	65名	59名	45名	51名	48名
計	120名	120名	106名	105名	107名

◆令和2年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	89	91	90	90	93	94	94	99	102	106	107	107
入所	0	3	1	1	4	1	0	5	3	4	1	0
退所	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	29

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修……………1名
- 食育・アレルギー関係研修……2名
- 保育士研修……………23名(高知県保育士会)
- 保育業務に関する研修………… 18名(zoom、オンデマンド、DVD研修含む)  
(特別支援保育研修、安全教育研修、保育の日、園長研修、主任研修、親育ち研修)
- カンガルーの会(職員会/年4回)・82名

◆令和2年度主要な年間行事

- 4月 入園式、顔合わせ集会(幼児組)、個別懇談
- 6月 検尿(4・5歳児)、歯科検診①②、プール開き、緊急時対応訓練
- 7月 七夕まつり、夏まつりごっこ、夕涼み会(年長児のみ)、夏の水遊び

- 8月 大掃除
- 9月 通報総合避難訓練、敬老の日行事(祖父母への手紙を出す)  
全園児健診①②
- 10月 運動会、高知市交通安全教室(3・4・5歳児)、お弁当の日、木曜市の買い物学習  
(5歳児)、不審者侵入訓練  
お芋ほり(5歳児)お芋ほりごっこ～焼き芋パーティー
- 11月 筆山山登り(11～12月)(3・4・5歳児)、未満児健診、家族の日プレゼント渡し、就  
学前健康診断
- 12月 生活発表会、お弁当の日、クリスマス会
- R3/1月 初詣、お正月あそび、不審者侵入訓練、歯科検診
- 2月 節分豆まき、小学校一日入学(5歳児)、全園児健診、緊急時対応訓練  
お店やごっこ、お弁当の日、作品展
- 3月 通報総合避難訓練(火災)、お別れ遠足(高知県立牧野植物園)※現地集合  
お弁当の日、新入園児保護者説明会、おわかれパーティー、卒園式
- ※4月20日～5月24日  
新型コロナウイルス感染拡大防止のための登園自粛、休園期間

その他 ◆ 毎月 誕生会、避難訓練、身体測定(0歳児)を行っています。

◆ 隔月 身体測定(1～5歳児)

◆ 個別相談、育児相談は必要に応じて行っています。

※緊急時対応訓練とは、先天性の小児慢性特定疾病の診断を受けたお子さんをお預かりしているため、体調の急変があった際の対応について園全体で訓練しています。

保育所 三里保育園

開園以来73年を経過し、本園は地域園芸農家及び勤労者家庭の児童の福祉増進に寄与してきたところですが、近年、核家族化の進展、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応し、子どもや保護者に必要な支援が求められています。一人ひとりの子どもが健やかに成長するよう、保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援を職員の専門性を活かしながら取り組んできました。

◎令和2年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 一人ひとりを大切にされた保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 子どもの心を受け止め相互的なやり取りを重ねながら、見通しをもった育ちの援助を行った。
- ② 家庭と連携を密にし、子どもが安心して過ごせる場となるよう援助や関わりを行った。

- ③ 年間計画を立て一人一人の成長に合った見通しがもてる保育に努め、子どもが健やかに成長し、豊かな活動に取り組めるよう援助を行った。

**(2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援保育、家庭支援等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供**

- ① 保護者の就労時間に応じた長時間保育を行った。
- ② 乳幼保育では積極的に取り組み、途中入所も受け入れ園児の増加に努めた。
- ③ 特別支援保育では研修に参加し、専門知識を身につけ保護者とともに子どもの育ちや支援に努めた。
- ④ 家庭支援では、衣服や寝具の洗濯や登園、降園時の補助を行ったり、常に声をかける、手紙を書く等、保護者が相談しやすい環境を作る努力を行った。

**(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、園庭開放等保育所地域活動事業の実施**

- ① 園庭開放は、年間7名の来園者があり入園にも結びついた。
- ② 異年齢児交流では、卒園児童との交流は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止としたが、令和2年度は年中児、年長児の混合保育を行うことにより、豊かな生活体験を始め保育内容の充実に努めた。
- ③ 毎年、老人宅訪問をする中で人をいたわり、思いやりの気持ちを育むことを目的として世代間交流事業を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止とした。地域のイベントにもこれまで参加していたが、令和2年度はほとんどの地域のほとんどのイベントが中止となった。

**(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援**

- ① 職員会や園内研修などで、園児の特性等の情報を職員間で共有し、個々の対応に連携して取り組んだ。
- ② 家庭環境に対する支援については、職員間の連携を図り関係機関とも協働・連携した取り組みを行った。

**(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上**

- ① 保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高め、職員同士の共通認識をもった取り組みをした。キャリアアップ研修にも参加し質の向上に努めた。

**(6) 保護者の就労支援の為、延長保育の実施**

- ① 保育が必要な家庭を対象に、平日午後7時00分までの延長保育に努めた。また、就労だけでなく家庭状況に応じて対応した。

**(7) 園児の体力づくりのための体操指導、英語講師による異文化への関わりの実施**

- ① 体を動かす楽しさ、大切さを知り柔軟な体づくりに取り組んだ。
- ② オーストラリア出身の講師と一緒に、英語を交えたゲームや遊びの実施に取り組んだ。

## (8) 避難訓練や防災活動の実施、及び関係機関と連携

- ① 地域の中学校との合同訓練は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止となったが、定期的に自園の津波避難訓練計画に基づいた火災や地震津波避難訓練を実施した。また、高知東警察署・三里交番の方とも合同訓練をした。それぞれの機関より評価をいただき、その結果を次の訓練に活かすようにしている。
- ② 防災備蓄物品については、避難場所である三里中学校に協力をいただき、毎年、点検や補充を行っている。令和2年度で、水、食料品の2日分（園児及び職員人数分）とオムツ、マスク、簡易トイレなどが備蓄できている。
- ③ 不審者対策として、各学期毎に様々な想定をふまえた不審者訓練を実施した。
- ④ 南海トラフ地震に備えたマニュアルの見直し研修会に参加し、自園のマニュアルの見直しを行った。
- ⑤ 県の実施した防災研修会（オンライン研修会）には、ほとんどの職員が参加した。

## (9) 健康の取り組み

- ① 4、5歳児を対象として、週5回、フッ化物洗口液でうがいを行った。
- ② 痙攣を起こすリスクのある園児がいることから「痙攣が起こったらどうするか」をシュミレーションし園内研修で振り返りを行うことにより対応について理解を深めた。
- ③ 3～5歳児を対象に歯ブラシ指導を行った。
- ④ 1月よりAEDを設置した。園の看護師指導のもと、乳幼児の心肺蘇生人形とAEDトレーナーを使用し、園内研修で講習会を行った。
- ⑤ 感染予防対策として、各クラスの園児を対象にして、園の看護師による健康教育「てあらい」「ウイルスのはなし」を行った。
- ⑥ 熱中症対策として、園の看護師指導のもと、熱中症対策のための講習会を園内研修として行った。また、毎日熱中症指数を掲示し職員への注意を促した。

## (10) 食育の取り組み

- ① 毎月19日の「食育の日」を職員に意識させ、食に関する絵本を読み聞かせる等園児に興味を持たせる様にした。
- ② 幼児組を対象に、クッキング保育や年3回の食育集会、年長児に向けて「だし」の味比べをして和食の大切さを知らせた。
- ③ 保護者に向けて食育だより・給食だよりの配布、行事食についての提示、子どもの好む給食やおやつレシピの配布等を行い、関心を持たせた。

### ◆ 組織の状況

令和3年3月31日現在

定員	90名
職員数	22名（正職8名、臨職7名、パート7名）

保育時間	平日 (7:30~19:00) 土曜 (7:30~17:30)
早出、居残り児童	早出児童67名、居残り児童67名

※嘱託医内訳(歯科医1名・内科医1名)

◆在籍児童数

令和3年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	12	12	17	16	11	12	80

◆年度別：月平均在籍児童数

年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
3歳児以上	54名	55名	46名	46名	39名
3歳児未満	35名	30名	38名	40名	38名
計	89名	85名	84名	86名	77名

◆令和2年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	71	71	73	73	76	78	78	79	80	80	80	80
入所	0	0	2	0	3	2	1	1	1	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・1名
- 給食関係研修・・・・・・・・・・4名
- 保育士研修・・・・・・・・・・29名(高知県/高知市/全国保育士会)
- 保育業務に関する研修・・21名(特別支援保育研修会・発達支援、リズム&ダンス研修・人権研修他)
- 危機管理研修・・・・・・・・・・2名
- 防災研修・・・・・・・・・・19名

◆令和2年度主要な年間行事

- 4月 入園式・対面の日、内科健診
- 5月 家族の日
- 6月 歯科検診、  
交通安全教室(幼児組)、地域津波避難訓練不審者訓練、尿検査(4・5歳児)
- 7月 プール開き、七夕笹飾り、地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)、

- 9月 地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)
- 10月 運動会、内科健診、火災避難訓練、
- 11月 地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)、記念写真、年長児お買い物、保育の日、勤労感謝慰問、歯科検診、就学前健康診断、秋まつり(4、5歳児)、歯みがき指導(学園短大生)
- 12月 もちつき、お店屋さんごっこ、クリスマス会、不審者訓練
- 3年/1月 乳児組懇談会、地震津波火災避難訓練(東警察署・三里交番合同)
- 2月 豆まき、小学校一日入学(5歳児)、生活発表会、交通安全教室(5歳児) 幼児組懇談会
- 3月 卒園式、お別れパーティー、新入児保護者会、お別れ遠足、不審者訓練
- その他
  - ◆ お誕生会、火災避難訓練、体操・英語教室は毎月行っている。
  - ◆ 食育集会、健康集会を学期に1回行っている。